

NEWS

LETTER

第13号

金沢大学共同研究センター

退任のご挨拶

共同研究センターでの思い出

元共同研究センター
教授
瀬領 浩一

大学を退職して1ヶ月がたち、ようやく残務整理が終わったところです。楽しい4年間の大学での生活を振り返りながら本稿を書いています。約40年前に金沢大学を卒業後、外資系コンピュータ会社、国産精密機械の会社を経て、また金沢大学に戻りました。共同研究センターでの産学連携の仕事は、企業での経験が生かせる面白い仕事と張り切ってやってきました。ただ大学と企業の微妙な立場の違いもあり、大学の先生はもとより企業の方がたや地方自治体の人々との新しいお付き合いは、私としてはまったく新しい経験でした。ずいぶんトンチンカンなこと言い、失礼なことも申しあげたような気がします。

振り返ってみれば、私の在籍していた4年間の共同研究の件数は185件前後と共同研究金額2億7千万円前後とほぼ変わらない状況でした。それまでの成長路線がここ数年は伸び悩みました。大学の法人化や三学域への統合といった、大学改革のチャンスを生かせず残念な結果となりました。この間に、産学連携コーディネータによるシーズ発掘試験研究費の獲得等外部資金の確保に向けての活動や、大学の職員による企業さま向けの有料の技術アドバイスサービスも始まりました。私にとっては、金沢大学MOT塾での非常勤講師の仕事は、結構緊張はしましたが企業での経験を整理しまとめる大変面白い仕事でした。

この4年間の間に、法人化を機に大学の先生方の考え方は急激に変わってきているのを感じています。ただ、それ以上に日本の産業を取りまく環境もまた変わってきているようです。これから必要なことは、1970年代の高度成長をリードした工業社会の再現ではありません。知恵社会の構築です。そこでは知恵が豊富な国や地域が発展するはずで、大学は新しい知恵を作り出し、そのための新しいタイプの人材を送り出す拠点となって社会への貢献が期待されます。同時に、期待にこたえられる先生だけが社会から選択される、淘汰の時代となって来そうです。

私はこれから1年、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーのパートの特任教授としての仕事をいただきました。

新ビジネスの情報収集とネタ探しを行う予定です。大学発ベンチャーは先生や学生が、考えていることを実現する大変やりがいのある仕事ですが、非常に成功確率の低い事業です。まずはベンチャーに乗り出したい人を増やし、しかる後に成功確率を上げるようお役にたてればと思っています。今後とも金沢大学の発展に役立つべくがんばりますので、皆様のご支援をよろしく願っています。

新任産学官地域アドバイザーの紹介

(財)石川県産業創出支援機構
プロジェクト推進部長
酒井 正二
産学官地域アドバイザー

石川県産業創出支援機構は、企業の皆様の研究開発や新分野への進出など創造的な取り組みを県単独の事業や国のプロジェクトに提案するなどにより支援しております。クイックレスポンス（即時対応）を基本に193cm（身長）の特徴を活かして、人的ネットワークを構築しながら橋渡し役として努力いたします。よろしく願っています。

「人は創めることを忘れなければ、いつまでも若くある。」（マルチン・ブーバー）

センター新任スタッフの紹介



分部 博 准教授

平成19年4月に民間企業より就任いたしました。民間企業では、本社部門・事業部門・研究部門で知財権取得、ライセンス交渉、知財戦略など知財業務一筋に担当してまいりました。この経験を大学での共同研究、委託研究の遂行、契約業務の円滑化、知財体制の強化に生かし、有効知財権確保、知財権の有効活用に関わりたいと思います。産学官連携で皆様のお役に立てる様に努力したいと思います。

金沢大学共同研究センター
NEWS LETTER 第13号 June 2007
発行：金沢大学共同研究センター
住所：〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL：076-264-6111 FAX：076-234-4019
E-Mail：crr@ad.kanazawa-u.ac.jp
URL：http://www.ccr.kanazawa-u.ac.jp/

Lessons from Akademeia
—プラトンの学園に学ぶ大学のあり方—金沢大学
共同研究センター長
山本 博

アカデメイア(Akademeia)は、紀元前387年ギリシア・アテナイ近郊にプラトンによって創設され、帝政ローマ時代の539年に終焉を迎えるまで、1ミレニアム近くに亘って存続した学園である。哲学を中心とする学問研究だけでなく、為政・立法者の養成という実践的側面ももち、一般市民も教育の場に参加できたという。また、独自の経済的基盤をもち、これが、時の政權に左右されぬ、学問研究の自由の支えとなっていたようである。アカデメイアは、アリストテレスをはじめ数多の学者を輩出し、キリスト教的中世に先行する古典古代の学術・文化の中心となった。

このようなアカデメイアの前には、日本の大学を含め、現存するほとんどの研究教育機関は顔色を失いそうである。まず、アカデメイアの自立性はあつぱれというほかない。固有のオリーブ園やぶどう畠、醸造施設などを有し、これらが学園の経営と、独立性、不羈性を支えた。ハーバード大学がウォール街の最新情報をリアルタイムで把握して財テクを行ったり、カリフォルニア大学が毎年3億ドルほどのパテント・ライセンス収入を次世代の研究教育に還元しているが、これらの

ルーツはアカデメイアに求められるのかもしれない。プラトンは対話を主たる教育方法とした。たそがれときにはプラトンが学生たちと杯を傾けながら授業を行う光景が見られたという。うらやましいような話であるが、自社ブランドをしかもうすめて飲んでいたのである。堂々、しっかりして文句のつけようがない。つきに、アカデメイアの社会性、開放性もすばらしい。プラトンの後継者アリストテレスが弟子アレキサンダー大王に「学問に王道なし」と教えたように、アカデメイアは王侯も市民も謙遜に学ぶ場であった。ボーダーレスに行われた教育の成果は市政や外交、市民生活にも活かされたにちがいない。教育方法にも先駆性があり、たとえば、アリストテレスが使いはじめた白板は黒板の原型となった。

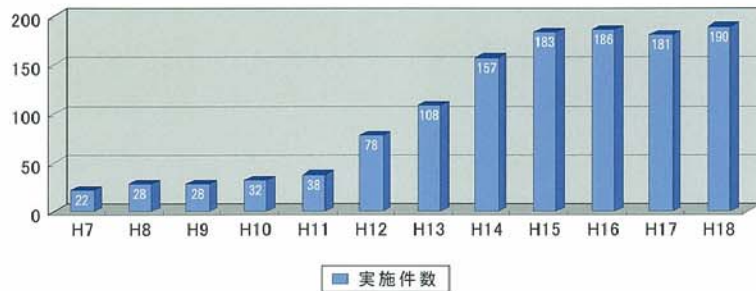
産学官連携は、プラトンのオリーブ栽培やぶどう酒製造に対応する現代版経営戦略と、現代大学のボーダーレス性を構成する主要要素のひとつである。年△1%以上の運営費交付金削減もありうる今後、産学官連携・知財活動は益々重要性の度を増してゆくものと考えられる。国立大学法人金沢大学は、学都金沢が擁する唯一の総合大学として「日本の書府」時代以来の良質の知を発展、創造、伝承し、総合的、学際的、探索的、応用的に展開して、学術・文化の拠点を形成すべき使命をもつ。現8学部は明2008年、3学域へと再編統合される。人間社会・理工・医薬保健の新生3学域・研究域は、個々に全体としてもアカデメイア的なものを構成し、地域と世界に貢献して行ってほしいと思うことである。共同研究センターはそういう本学の自立性と社会性の一層の向上のため今後とも尽力してゆきたいと考えている。

平成18年度 共同研究実施状況について（平成19年3月31日現在）

本号では、前号以降に契約された14件の産学官共同研究テーマを紹介しますが、平成18年度全体の共同研究件数は190件と、平成17年度の181件を上回り減少傾向に歯止めがかかりました。しかし、全学で目標とした件数にはおおよびませんでした。昨年に引き続き、理工医薬系のみならず、文教育経法学部等の文系学部および学内共同教育施設等設や学内共同利用施設の諸センターにも広く共同

研究への取り組みをお願いしています。また、昨年度より共同研究センター協力会において始めた有料の技術アドバイスサービス（協力会企業は年会費内分は振り替え可能）の延長線上で共同研究を検討される企業や、各種自治体の産学連携助成金を活用して共同研究される事例も増えてきています。今後とも皆様の暖かいご支援とご協力をお願いいたします。

共同研究実施の推移



共同研究テーマ

大学院医学系研究科	契約件数14件
メタボリックチップの開発	
細胞保護作用化合物の探索研究	
大学院自然科学研究科（薬学部）	
規格外くるみとミクロン粉末技術を利用した新規食品の開発	
大学院自然科学研究科（工学部）	
新しい有機ナノコンポジットの開発	
膜処理によるリネン排水再利用技術の開発とその事業化	
医療・介護支援のためのヘッド生体情報モニタの開発研究	
人工リーフの機能と安全性に関する実験的研究	
長坂用水「法師の隧道」文化財指定範囲の検討	
雷氷路面の凍結防止対策について	
長コイル・パルス変調誘導熱プラズマを用いたナノ粒子生成	
イーザーラーメン種の耐荷力評価に関する研究	
推測航法におけるカルマンフィルタに関する研究	

その他 2件

金沢大学の「医療・介護」研究シーズ発表会の開催(2007.2.9)

2月9日（金）、インキュベーション施設セミナー室にて、金沢大学・（財）石川県産業創出支援機構主催、北國銀行共催により、「金沢大学の「医療・介護」研究シーズ発表会」が開催されました。

この発表会は、金沢大学の医療・介護分野の研究の実用化に向けて、地域の保健・医療・福祉に関係する企業と連携した実用化推進や、今後の医療・介護分野のサービス向上のため、参加者と共に産学官連携について考えて行こうという主旨のもと開催されました。

山本共同研究センター長の挨拶の後、共同研究センター瀬戸浩一教授より金沢大学共同研究センター協力会による「技術アドバイスサービス制度」の紹介がされ、下記の3名の先生方から研究シーズの発表が行われました。

希望者には共同研究センター内の見学会も併せて行われ、当日は、約50名の参加者が集まり、各先生方への多くの質問が寄せられ、今後の地域医療・介護分野への高い期待が望める大変有意義な発表会となりました。



医学系研究科 真田教授による発表

- ① 医療・介護支援のための無拘束・無意識生体情報モニタの開発
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 講師 本井 幸介
- ② スタンドアロン型デジタルX線聴診器の開発と応用
大学院医学系研究科保健学専攻 教授 真田 茂
- ③ α線を放出するラジオアイソトープの医学利用に向けた取り組み
大学院医学系研究科保健学専攻 助手 鷲山 幸信

平成19年度JST「シーズ発掘試験」公募説明会の開催(2007.2.13)

2月13日（火）、インキュベーション施設セミナー室にて、JST平成19年度のシーズ発掘試験公募説明会が開催されました。

この事業は、JSTによる地域イノベーション創出総合支援事業の一つで、各府省・大学（知財本部・地共センター等）・地方自治体・独立行政法人・TLO等に配置されている各種コーディネータ等が発掘した大学などの研究シーズを育成するとともに、実用化に向けたコーディネート活動を支援することを目的とした試験研究制度です。平成18年度の金沢大学の採択件数は、26件と全国6位にランクされています。（独）科学技術振興機構

研究成果活用プラザ石川より、平成19年度募集についての注意点を、平成18年度募集からの変更等が説明され、参加した学内や学外からの参加者から申請に当たっての質問が多数寄せられました。



（独）科学技術振興機構研究成果活用プラザ石川 富澤事務局長による概要の説明

平成19年度研究開発助成事業等合同説明会の開催(2007.2.28)

2月28日（水）、自然科学系図書館棟大会議室にて、平成19年度研究開発助成事業等合同説明会が、（独）科学技術振興機構研究成果活用プラザ石川主催、金沢大学共同研究センター・（独）科学技術振興機構研究成果活用プラザ大阪共催で開催されました。

当日は、大阪府立大学教授・産学官連携機構総戦略調整室長 宮武 和孝氏をお呼びして『ウォーターオープン「ヘルシオ」に見る産学官連携—知識から智慧によるシーズとニーズのマッチング事例—』と題し、講演会も開催されました。

宮武教授は、農工産連携で過熱水蒸気オープン「ヘルシオ」を共同開発され、空前のヒット商品を創出した方であり、このような産学官連携への取組みに関し、非常に有益なお話を頂戴しました。講演会後は、経済産業省とJSTによる研究開発助成事業等説明会が行われ、今後の競争的研究資金獲得への参考になりました。

当日は、約90名の参加者が訪れ、大変盛況に終了いたしました。終了後、シャープ株式会社様のご好意により、南地区生協食堂にて「ヘルシオ」の実演も行われ、こちらへも沢山の参加者が訪れました。



大阪府立大学 教授 宮武和孝氏による講演

MEX金沢2007「第45回機械工業見本市金沢」へ出展(2007.5.17～5.19)

5月17日（木）から19日（土）の3日間、石川県産業展示館にて、MEX金沢2007が開催されました。今年で45回を迎えるこのイベントは、入場者6万人と100社を超える出品者が一堂に集まる工業見本市です。

金属工作・加工機械及びその関連製品並びに電機・電子関連機器等の流通促進と技術交流を図り、産業と貿易の振興発展に寄与することを目的に昭和38年から開催されております。

本学からは、下記の3名の先生と共同研究センターが出展しました。

来場者へ分かりやすく説明をする教員や学生の姿が印象的でした。実際に成果を体感するお客様など、多くの関心が寄せられました。

- 「有機材料をベースとした表面改質による機械材料の開発」
自然科学研究科 准教授 岩森 暁
- 「集束型指向性アレイスピーカ」
自然科学研究科 教授 西川 清
- 「低周波電磁波源位置推定・可視化システム」
自然科学研究科 准教授 八木谷 聡
- 「研究成果物及びパネル展示」
共同研究センター



「低周波電磁波源位置推定・可視化システム」の八木谷 聡 准教授（左）と説明をする研究室の学生（中央）